



©19-004



令和4年7月1日発行

京田辺市

観光ボランティアガイド協会

広報部編集

☎ 0774-68-2801

令和4年度に目指すもの

代表 田原博雅

昨年度(令和3年度)まで2年間に亘るコロナの影響でいろいろなイベントを中止にせざるを得ない状態が続きました。今年度になり、ようやくコロナ前の状況にもどるようになりそうです。京田辺市観光ボランティアガイド協会では、令和4年度、下記に示す5つの方針で進めてまいります。

① IT化の推進 多くのお客様に参加いただけるようリニューアルしたホームページで情報発信力を強化します。また、SNS等のツールを使った新たな手法を模索します。

② スキルアップ 京田辺のガイドの説明は非常に素晴らしいとお客様より好評をいただいております。今後それを継続するため、毎月の定例会で、勉強会を開き、よりレベルアップしたガイドを目指したいと考えております。

③ 国際化 令和4年度はコロナも収束し、インバウンドのお客様の増加が考えられ、昨年に続き国際化対応を目指します。

④ 近隣都市とのコラボレーション 八幡市・城陽市・木津川市・精華町等の関係機関との連携を強化します。

⑤ 9期生の募集 新たな戦力を増強し、たくさんのお客様に対応できるよう努めます。

京田辺市観光ボランティアガイド協会の

ふれあいハイキング情報

©19-004



京田辺市を巡るなら、観光ボランティアガイド協会をご利用ください！

京田辺を愛し、京田辺をよく知るボランティアガイドが京田辺の魅力と素晴らしさを皆様にお伝えします。定期的なハイキング行事の他、個人やグループの皆様へのガイドもいたします。



京田辺市観光ボランティアガイド協会

検索

←QRコードを読み込んでアクセスできます

ホームページアドレス ➡ <https://kyotanabe-guide.com/>

facebook

フェイスブックアドレス

<https://www.facebook.com/kyotanabe.volunteer.guide/>

フォローして、いいね！👍してね♪



Instagram

フォローしていいね！❤️

インスタグラムアドレス

してね(〜♪)

https://www.instagram.com/guide_kankou_kyotanabe/

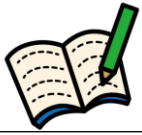
京田辺市観光案内所
「京たなべ玉露庵」
リニューアルオープン



ボランティアガイドが観光案内を行っています(基本的にお水・金・土・日曜日の10~16時)。自分で淹れる玉露、抹茶の点て方体験も可能(有料)です！

行事のお申込み・お問い合わせは「京田辺市観光案内所」までお願いします

☎ 0774-68-2801 (9:00~17:00) e-mail: guide@kankou-kyotanabe.jp



ガイド日誌



一筆書きで甘南備山巡り ～京田辺のシンボル甘南備山を知り尽くそう～

京田辺の唯一の独立峰で神の御座所として古くから信仰を集めてきた甘南備山。

何度もハイキングのコースとしてガイドをさせていただきましたが、いつもは主に舗装された管理道路を歩いていました。

今回は趣向を変えて旧登山道を中心としたコースを設定し、一筆書きで8の字型を描きました。そのため、高さ211mの低山ですが、アップダウンと距離も相当なものとなり、万歩計は約2万歩となりました。

自然に侵食された小さい峡谷や、梅の小径・ヒノキの小径・雨乞いの小径などガイドの我々も新鮮さを感じながら楽しく歩けました。

春霞で比叡山や愛宕山・京都北山連山などが見えなかったのが残念でしたが、京都市内は何とか遠望することができました。

参加者の当日キャンセルもなく、最後まで歩いていただき、「楽しかった！」と言っていたことを大変嬉しく思います。

またある班では、更にラッキーなことがありました。帰りの手原川上流の葦原でカワセミを発見、全員が見守る中で見事な瑠璃色の羽を広げ飛んでいきました。もちろん大歓声が上がりました🌸 [3月11日(金)実施] (石橋)



新緑の里山と歴史を訪ねるハイキング

～咲き誇る無二荘の牡丹園を鑑賞～

朝は曇天、午後は降水確率が高いので笠上神社・千鉢山はコースカット、三国境・朱智神社へ直行し昼食としました。昼食後12時頃から小雨が降りましたが、通り雨的で大きな影響はありません。

今回のテーマは「無二荘牡丹園」の鑑賞です。無二荘は、現当主辻尾さんの曾祖父が明治初期に始められ、幾多の経緯を経ながら現在約1000株のボタンが栽培されています。

雨でしっとりとしたボタンは美しく、あでやかで、優雅な姿に一同感激。丘陵地に咲き誇るボタンはまさに今が旬な時です。

かつてこの「天王のボタン」に魅せられて多くの画家、染色家、歌人及び俳人たちが訪れたといい、「雲上に山荘の牡丹あふれんと」の句碑が往時を偲ばせます。



以前は「牡丹園」を一般公開されていましたが、近年はされていない中、私たちに鑑賞の機会を与えていただいた辻尾さんに心から感謝申し上げます。[4月21日(木)実施] (古野)

新緑の樹木観察と史跡をめぐる

新緑が出そろそろ5月は樹木観察の適期です。諏訪ヶ公園は約60種類の樹木を一度に観察できる数少ない場所です。その諏訪ヶ原公園を舞台に、40本に番号札を設置し、樹木の特徴や名前を覚えながら自然を守る大切さをつかんでいただければ！という思いで開催させていただいたイベントです。

前日まで雨で、当日心配されたお天気でしたが、何とか持ち直し参加者17名(当日4名のキャンセル)とガイド及び会員5名で実施しました。



資料の中に40本の樹木名を書いたチェックシートを用意させていただき、各自知っている樹木をチェックするという方法で遊び感覚を取り入れました。

参加者の皆さんには、興味をもって見ていただき、多くの質問も出て、和気あいあいの交流の場となりました。

30数本のメタセコイア、珍しい花が見られるユリノキ、株立ち・自然樹形の美しいケヤキなど他では見られない見事さでした。

その後は松井の天神社、虚空蔵谷川、月読神社、大住車塚古墳と史跡を巡りました。

ご参加ありがとうございました！

[5月14日(土)実施] (石橋)

今後の行事の見どころ案内

市制 25 周年記念『市民参画型講演会』の開催について

「古墳時代の京田辺が面白い!」「京田辺の各時代の見所とは?」

今年は、平成 9 年 4 月に市制が施行され、京田辺市が誕生して 25 周年という節目を迎えます。これを記念した「市民参画型講演会」をつぎのとおり開催します。

昨年一休寺の裏山にある天理山古墳群の調査で、前方後円墳 2 基を含む 3 基の古墳の存在が明らかになり、現地からは葺石（ふきいし）のほか、円筒埴輪や家形埴輪が出土し、市民の関心が大いに高まりました。〔天理山 3 号墳円筒埴輪〕⇒



このほか、市内には全国でも珍しい 2 つ並ぶ前方後方墳の大住車塚古墳や市内最大の飯岡車塚古墳など多くの古墳が分布しています。

講演会の前段では歴史ロマンあふれる古墳時代の京田辺の様子について解説、後段では、奈良時代から現在までの歴史のトピックス（大住荘と薪荘の争い、「虎の絵師」として知られる日本画家・生駒翠山など）についてわかりやすく解説していただきます。



〔生駒翠山絵葉書（小麦の脱穀）〕⇒

◎日 時：令和 4 年 8 月 27 日（土）午前 10 時～11 時 30 分（受付 9 時 30 分から）

◎場 所：京田辺市立中央公民館 大ホール

◎講 師：京田辺市文化・スポーツ振興課 上野 あさひ さん
京田辺市市史編さん室 松本 勇介 さん

- ・定員：先着 80 人（定員になり次第締め切らせていただきます。）
- ・参加費：200 円（資料代）
- ・締め切り：8 月 26 日（金）正午【受付開始 7 月 15 日（金）】
- ・申込方法：電話か電子メールで、氏名・住所・電話番号・参加人数を連絡してください。
- ・申込・問合せ先：「京田辺市観光案内所」☎68-2801 又は「京田辺市駅ナカ案内所」☎68-2810
（午前 9 時～午後 5 時） e-mail：guide@kankou-kyotanabe.jp
- ・主催：京田辺市観光ボランティアガイド協会 ・協賛：京田辺市観光協会（熊澤）

南山城の至宝十一面観音を訪ねて

観音菩薩。観世音菩薩あるいは観自在菩薩とも言う。大乘仏教の代表的な菩薩で、法華経には、救いを求める人々に適した姿で現れる変幻自在の菩薩であると説かれていて、その一つが十一面観音である。

十一面観音はあらゆる方角に顔を向けて人々を救うために、全方位を意味する十方に自身の顔をくわえて十一面。仏像では頭の周囲に十一面をつけ、頭頂に如来面をつけるのが普通だ。

正面の三面は教えに従う者を慈悲の顔で見守る慈悲面、向かって右側の三面は教えを守らぬ者を叱り、悪を取り除く瞋怒面。左側の三面は善行の者を誉め、精進を促す狗牙上出面、真後ろの一面は悪行の者を快笑して教化する暴悪大笑面、そして頂上には仏道を求める者に最上の道を説く頂上仏面である。

今回のツアーでは、京田辺市が誇る三体の十

一面観音像を拝観する。

●壽寶寺

十一面千手千眼観音立像（重要文化財）

左右 20 の大脇手の前に小脇手が扇状に千本配置されている。この十一面千手千眼観音立像は、葛井寺、唐招提寺の観音像とともに実際に千本の手を持つ観音として三大傑作のひとつだ。



※画像は Google より拝借しました。

●法雲寺

十一面観音立像

（京都府指定文化財）

体を右に傾け、腰をやや左にひねって右足を浮かせて今にも歩き出しそうな身のこなしをみせる。



（次頁へ）

●観音寺

十一面観音立像（国宝）

少年のようなお顔立ちで天平彫刻の特徴がよく表れている。国宝の十一面観音立像は全国に7体しかない。そのような十一面観音像をまづかに拝めるのは必見の価値がある。



©京田辺市観光協会

実施日：令和4年11月5日（土）

参加費用：500円 雨天決行

コース：JR三山木駅（集合9：00）→壽寶寺拝観（十一面千手千眼観音立像）→法雲寺拝観（十一面観音立像）→正福寺（経由）→大御堂観音寺拝観（十一面観音立像）（解散12：30頃）

※別途、壽寶寺拝観料（300円）、観音寺拝観料（400円）が必要。法雲寺は志納。（保野）

～京田辺の神事シリーズ 大住隼人舞②～

月読神社ならびに天津神社、例祭の宵宮（毎年10月14日）に奉納される『隼人舞』は次のとおりである。

プロローグは小学生
女兒による『隼人踊り』。
（右写真）
そして中学生男子による、



① お祓いの舞

② 神招の舞



③ 振りつるぎの舞

④ 盾伏の舞



⑤ 弓の舞

⑥ 松明の舞



の6種目で構成された『隼人舞』が演じられる。

『隼人舞』の基本所作は、日本書紀神代下第十段に記されている兄神（海幸彦）が弟神（山

幸彦）に子々孫々に至るまでの服従を誓ったときに演じた内容となっている。

- ・水が足元に打ち寄せてきて思わず爪先立ちとなり水を避けようとする様（^{あしうら}足占）
- ・水がクルブシまで来て慌てて逃れようとする様（足挙げ）
- ・水が膝まで増え、懸命に逃れようとする様（走り回り）・海水が腰まで増え、腰をもじり、水をかき分けながら必死で逃れるさま（^{こしもちい}腰捫）
- ・海水が胸まで浸り、恐ろしさのあまり夢中で祈る様（手を胸におく）
- ・海水が首から顔のあたりまできて、溺れる寸前で助けを求める様（^{たひらかす}瓢掌）

海幸彦・山幸彦神話はインドネシアからオセアニア（中部太平洋から南太平洋の海域とオーストラリア、ニュージーランド）に広がる神話である。太平洋沿岸沖には時計廻りに4大海流が流れており、オセアニア方面からは北赤道海流が日本列島太平洋沿岸を北上する黒潮に繋がっている。古代においてはこの海流を利用した文化の伝播があったことは間違いない。

現在、インドネシア、オセアニアには近海漁業用に残された極めて凌波性能の高い小型のアウトリガーカヌー（帆走船）があるが、18世紀イギリスのキャプテンクックは南太平洋探検時、大型のダブルカヌーを目撃している。また、遠く離れた島々での共通言語にも驚いている。これは現地人の航海技術がいかにすぐれていたのかを物語る。羅針盤の無い時代、気象、海流、星、風を頼りにどのように航海したのかを想像しつつ『大住隼人舞』を鑑賞するのも感ひとしおである。（小川）